

「カンピーナス大学病院小児棟用人工呼吸器整備計画」供与式

平成 23 年 6 月 7 日(火)にカンピーナス市に於いて、「カンピーナス教育・指導協会」に対する我が国の草の根・人間の安全保障無償資金協力の供与式を行いました。式典にはブルーノ・ガンベリーニ会長と当館大部一秋夫総領事が出席しました。

式典に於いて、ブルーノ・ガンベリーニ会長は、「本日は、小児病棟の集中治療室で使用する人工呼吸器の供与式であり、我が病院にとり記念すべき日である。様々な分野で日系人が従事している我らの病院及び大学に、この度総領事が訪問されたことを契機に、我々ブラジル人と日本との友情の始まりとなるよう願っている。高価な医療機材を寄贈していただいたことに対して感謝を申し上げる。」と謝意を述べました。カンピーナス・カトリック大学アンジェラ・メンドンサ・エンジェルベック学長は、「多くの人々が PUC 大学は私立であるため利益を挙げていると思っているが、その利益の全てを数多くの貧しい人々たちに対しサービスを行うため病院に充当している。」と説明した。大部一秋総領事からは、「100 年前の 1908 年に日本人移住労働者が渡伯した際、ブラジルは親切と愛をもって迎えてくれたことに対し、この国や社会、人々に深く感謝している。また、このような形でブラジル社会に貢献できることを名誉に思う。」と祝辞を述べた。それに対して、ブルーノ・ガンベリーニ会長は、「総領事は、1908 年に日本人移住労働者が渡伯した事を述べましたが、1908 年 6 月 7 日はカンピーナス大司教区の設立年で、偶然にも本日 6 月 7 日までが一致しており、総領事夫妻の訪問がとても崇高な事に感じられる。」と挨拶しました。



ODAプレートの序幕



使用中の人工呼吸器



病院関係者と大部総領事夫妻

○ 上記案件のプロフィール

案件名: 「カンピーナス大学病院小児棟用人工呼吸器整備計画」

被供与団体: 「カンピーナス教育・指導協会」

プロジェクト実施地: サンパウロ州カンピーナス市

契約署名式日: 2010年12月10日

供与額: 約159,000レアル

案件の概要: 1941年に設立されたカンピーナス教育・指導協会は、バチカン直属の私立大学カンピーナス・カトリック大学及び医学部付属総合病院のセルソ・ピエロ病院・産院を経営しており、ブラジル社会に教育及び無料の医療サービスを提供する慈善団体として認められています。1978年に落成されたセルソ・ピエロ病院・産院は、入院患者用ベッド353床を有し、救急医療、診療、治療、検査等の三次高度医療サービスをSUS(統一医療保険システム)により無料で地元住民に提供する医学部付属病院であり、更に地域中核病院に認定されているため、ブラジル保健サービスの規定に基づき、保健省が定めるカンピーナス地区管轄内の近隣19市からの患者も受け入れています。同病院の小児病棟では月間約5000件の診療・治療が行われ、病棟内全36床の内、普通病室に29床、集中治療室に7床が整備されている他、産科病棟には新生児集中治療室に18床が整備されています。小児病棟の集中治療室には、現在6台の人工呼吸器が整備されておりますが、そのうちの3台の老朽化が激しく、患者の症状や年齢に合わせて調節できない等全ての患者に対応できない状態が続いておりました。

この度の日本政府の支援により最新型の人工呼吸器3台を導入することができ、同病院の窮状を改善することができました。

供与品目: 人工呼吸器

